

自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 22年 4月 15日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	2772402745		
法人名	有限会社 うらら		
事業所名	グループホーム うららの家		
サービス種類	認知症対応型共同生活介護 介護予防認知症対応型共同生活介護		
所在地	枚方市村野東町10番35号		
自己評価作成日	平成 22年 3月 24日	評価結果市町村受理日	平成 年 月 日

【事業所基本情報】

① 介護サービス情報の公表制度の基本情報を活用する場合	
② 情報提供票を活用する場合	別紙情報提供票のとおり

① 基本情報リンクURLを記入 ② 別紙情報提供票のとおり

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人 近畿マネジメント・サポート・センター
所在地	〒546-0035 大阪市東住吉区山坂五丁目5番14-103号
訪問調査日	平成 22年 4月 12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

利用者さんの元気で長生きしたいという気持ちに添うように、栄養的に優れていて美味しい食事の提供に努めている。室温調整に配慮し、温かく、涼しく、良い環境でくつろぐことが出来るようにしている。排便チェック、口腔ケアを大切に、腸閉塞、誤嚥性肺炎など高齢者が陥りやすい体調悪化に対し、予防的対応に努めている。週一回、訪問歯科による口腔ケアを実施して歯垢、歯石、舌苔の除去を行っている。精神状態が体調に及ぼす影響にも配慮し、高齢者が陥りやすい心気症の体調不良に対しては、個人的な目配りを細かく行い、気分的に明るくなって、体調のことばかりに心が煩わされ落ち込むことの無いように、外食、映画鑑賞、買い物などの楽しい外出の機会を作っている。精神的、身体的機能の維持向上にとって、日々の生活上の活動がリハビリ効果が大きいということも踏まえて、それぞれのやりたいこと、出来ることを見極めて、出来ることは自分でやって貰うように対応している。どこまで介助するのか、どのように見守るのかを職員間で話し合う場として月1回の職員会議を定例とし、全職員が参加している。必要に応じて、利用者家族も参加し、意見交換に加わって貰っている。何よりも認知症によって本来の状態でなくなっていく人の哀しみに寄り添うことの出来る職員集団であることを目指し日々努力している。一年に一回は1泊旅行を企画し、参加可能な利用者に職員が1対1で付き添って良い思い出づくりをしている。旅行に先立っては、旅程などを一緒に相談し合っ、期待を高めながら、心躍らせる経験となるように企画している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

ホームは府営村野浄水場、有名校や小中学校等が付近一帯にあり、閑静な環境にあるが、設立6年目を迎え、職員の勤続も安定しているので、利用者は安心して楽しい毎日を送っている。運営者が特に、利用者の体調管理と、日々を楽しんで暮らして頂くことに配慮しており、体調管理については職員も、一人ひとりの介護記録を大切に、チームとして全員が話し合いの上で、介護計画に活かし、適切な介護を行なっている。食事は専門職員によって毎食、心を込めたメニューで、リクエストも含め、調理されている。又、管理者も利用者の楽しみごとには特に配慮しており、体調の良い者のうち、希望者だけではあるが、毎年1回は1泊旅行を行なっている。更に、映画も希望者に限り、近くの上映館に案内し、年に何回か、楽しんで頂いている。運営者はご両親、ご兄弟と、ご家族も一緒にホームの近くで長年、在住しているので、近隣の皆さんとは昵懇の関係である。地域の他のホームの方々との交流会も適宜に開催されているので参加し、運営に役立つ情報交流と介護向上の参考としている

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○ 理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	認知症があっても障害があっても住み慣れた地域で暮らしたいという希望をかなえるホームとして「一人一人が心豊かに個性豊かに」を理念とし、日々確認し合っている	毎月第3金曜日の20時30分より約2時間(有給)情報交換を実施している	
2	2	○ 事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として、日常的に交流している	散歩時に地域住民から前庭の花の名前を教えて貰ったり、おやつを頂いたり、散歩中の犬のことで話を弾ませたりしている。事業所便りを配布し盆踊りの時夏祭りを行う	近隣に在住の職員も多いので、散歩の際には、何かと住民の方との交流ができています	
3		○ 事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げていく認知症の人の理解や、支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所便りに、利用者の様子を紹介し、ワンポイントアドバイスコーナーでは高齢期の生き方に対するアドバイスを掲載している		
4	3	○ 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について、報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の体調の変化やそれに伴う精神状態の変化、それに対する職員の対応などを報告し、理解を求めたり、アドバイスを頂いたりしている。それを月ごとのミーティングで検討し合いサービスの向上に資する	運営推進会議にご出席の委員の方々から、何かと、情報を頂いて介護向上に役立たせている	
5	4	○ 市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	提出書類などで不明な点は電話で質問し指導を仰いでいる。地域包括支援センターで行われる定例のグループホーム交流会に出席し、情報交流に努めている。	市役所とは電話での交換が多くなっている。地域のグループホーム交流会に出席し、情報交流が出来て、介護向上に役立っている	
6	5	○ 身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて、身体拘束しないケアに取り組んでいる	具体的行為の内容について会議で確認しあって居り、利用者の気持ちに寄り添う介護になるよう努めている。	介護職員は一人ひとりに、気配りをして介護に当たっている	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○ 虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法について学習し合い、一時性、緊急性、非代替性という原則を踏まえて対処している。		
8		○ 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護についての学習を、所内では行っているものの、更に深く学ぶため、地域包括支援センターの社会福祉士に研修を要請したが双方の時間的調整が困難で実施できなかった		
9		○ 契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書に沿って、契約時の説明を行い、疑問点などを出して貰っている。又随時納得のいかない点があれば答えている		
10	6	○ 運営に関する利用者、家族等の意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員、並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	週1回の歯科訪問による口腔ケアが必要ないなどの家族の意見も受け入れている。利用者家族の会での意見も職員会議の中で提案しケアに反映させている	運営者は、来訪されるご家族とは常に話し合い、ご意見やご不満等があれば、直ちに対処している	
11	7	○ 運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や、提案を聞く機会を設け、それらを反映させている	職員会議の中や、対個人の話し合いの中で職員の思いを聞き取るように努め、より働きやすい環境になるよう努力している	在籍職員の人数を増やして、時間的な融通を取りやすくしている。その他、改善については職員会議等で検討されている	
12		○ 就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう、職場環境・条件の整備に努めている	一人一人の職員の個性意欲を把握し、より向上心を持って働くことが出来るように随時声かけ、アドヴァイスを行っている		
13		○ 職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の為の休暇の要請には快く応じ体勢の調整をしながらより学ぶ機会を確保できるように配慮している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		<p>○ 同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	グループホーム交流会 介護支援専門員協会の交流・学習会への参加を通じ、同業者との交流、情報交換、意見交換の機会を持てるように努めてきた		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○ 初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	高齢になると環境の変化に適應する能力が弱くなること、特に認知症の人の不安な精神状態を考慮し、繰り返される同じ訴えに根気よく答えてきた		
16		<p>○ 初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	サービス開始の段階でこれまでの生活歴、病歴などを詳しく聞き取り、支援の情報とすると共に、家族の願い、思いを汲み取るようにしてきた		
17		<p>○ 初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	入居を求めてこられときは、家族は同居する困難さに追い詰められていたり、独居の場合には周辺からのクレームに困惑していたりすることが多いので、まず一息つきたいと言う思いを受けとめる		
18		<p>○ 本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を支援される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	制御された感情移入により、相手の語りかけに同調し、共感し合う関係であることに努めている。散歩時など若い頃の話聞くのは職員にとっても安らぐ一時である		
19		<p>○ 本人と共に過ごし支え合う家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	家族とは一人の利用者を共に支える関係にあることを前提として語り合いながらも介護上のあからさまな困惑を持ち出して家族の気持ちを傷つけないように労りの思いを忘れないようにしている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	○ 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や、場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	居室内に、亡き両親、夫との思い出の写真や子供や孫との交流の写真を掲示してある。又仏壇を持ち込んでおられる人も3名おられる。友達や民生委員さんも訪問してくる	利用者の知り合いの方にも、気安く訪問していただいている	
21		○ 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	自然に仲良くなったり、わずかな行き違いで険悪になったりするが、適時介入し双方の思いを和ませ、同じ活動に誘導したりしながら良い関係になるように働きかけている		
22	9	○ 関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	特養に移ってから何度も電話してきて、面会を求めてきた人もおり、尋ねて行って、元気な様子を喜び合い励ましてきた		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23		○ 思いやり意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	「私チャンバラが好き」と遅くまでテレビを見ていたり、「仏壇のお供えを買いに行きたい」「花を買いに行きたい」などの希望に添うようにしている	テレビだけでなく、上映されている映画館へも希望者を案内している。スーパー等へも一緒に行っている	
24		○ これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や本人その他の関係者とのコミュニケーションから、生活歴を把握しながら、現在の状態とすりあわせて、再アセスメントを繰り返している		
25		○ 暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の、現状の把握に努めている	基本的な情報をよく把握しながらも、それにとらわれることなく本人のストレングスの変化を見落とさないようにしている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○ チームでつくる介護計画とモニタリング	日々の個人記録、日報引き継ぎ事項などを参考にし、本人の状態をよく観察し、各職員との会話や、家族との会話の中から意見・アイデアを取り込みながら現状に即した介護計画を作成する努力をしている	職員はチームとなって利用者一人ひとりの、発見した症状等を記録し、計画作成に活かしている	
		本人がより良く暮らすための課題と、ケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している			
27		○ 個別の記録と実戦への反映	ケア経過票を元に、概要を整理し、各職員が工夫してきたことを記録し見直ししながら自分のケアを振り返るよすがとしている。		
		日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら、実践や介護計画の見直しに活かしている			
28		○ 一人ひとりを支えるための事業所の多機能化	医療系サービス、介護相談員の訪問、ボランティアなどのインオーマルサービスを組み合わせ、なるべく柔軟な支援、多機能適支援になるように努力している		
		本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援や、サービスの多機能化に取り組んでいる			
29		○ 地域資源との協働	グループホームの存在を温かく見守り受け入れてくれている地域の人々、盆踊りの日にホームの夏祭りを受け入れてくれている自治会の存在に感謝し、豊かな暮らしになるよう支援している		
		一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら、安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している			
30	11	○ かかりつけ医の受診診断	かかりつけ医の意見や看護サマリを参考にしながら居宅療養管理指導の医師、歯科医師の指導を受け、体調の把握・管理に努めている	週1回の内科、歯科各医師の診察、治療を頂き、夫々の指導、介護の指示を頂いている	
		受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られた、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している			
31		○ 介護職員との協働	利用者の様子を観察しその訴えを傾聴し、訪問してきた看護師に伝え、アドバイスを受けている。筋力低下を防ぐためにも、なるべく日中は横たわらず、座位を保っておくようになどアドバイスされた		
		介護職員は、日常の関わりの中で、とらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
32		<p>○ 入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	退院時カンファレンスに管理者、介護支援専門員が参加し、その時の内容を全職員に伝えることにより、よりよい回復状態に持つて行くことが出来ている			
33	12	<p>○ 重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で出来ることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	あまり早い間から終末期のあり方を話し合うということはためられるが、終末期医療に向けた研修を受けたり、方針を文書化したりしている。認知状態のしっかりした利用者からは「お金は生きている内に使いたい」という希望も聞いている	関係ご家族とは十分に話し合っ、夫々の対応した処置を行なってきた	高齢化が進んでいるので、職員に一般論としての重度化、終末期についての情報提供を進めて欲しい	
34		<p>○ 急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は、応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	気道確保、人工呼吸、心臓マッサージなどの知識はあるが、訓練を定期的に受けるというまでには至っていない			
35	13	<p>○ 災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を、全職員が身に付けると共に、地域との協力体制を築いている</p>	安全計画を作成し、避難についての認識を高めると共に、高齢者の特性をよくわきまえ、各人の移動能力の限界を認識して、いざというときの備えとしている	職員同士で緊急速報の練習、緊急避難訓練をやっておいて欲しい		
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	<p>○ 一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りや、プライバシーを損ねない言葉かけや、対応をしている</p>	長い年月を生きてきた人であるという敬意を忘れず、誇りを傷つけることの無いように接し、プライバシーを損ねないように個人情報保護に留意している	全職員が、利用者を人生の先輩として、日頃から接している		
37		<p>○ 利用者の希望の表出や、自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が、思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	自己選択出来る機会を多く設け「～しましょう」でなく「～しましょうか」という言葉掛けをしている。旅行の経路なども相談して決めている			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
38	15	○ 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	体調や気分に合わせて何をしたいか、どのようにしたいか尋ねるようにしている。「～を買いに行きたい」「今日は入浴は止めておく」など希望を優先している	職員は日常業務を優先ではなく、一人ひとりの気持ち、要望を大切に介護を行なっている		
39		○ 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみや、おしゃれが出来るように支援している	居室に化粧品を置いている人もある。家族と美容院へ行く人もいる。夏祭りの日には浴衣を着て参加する。			
40	16	○ 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	たこ焼きを一緒に焼いたり、トチ餅を一緒に作ったりする。枝豆ちぎり、もやしの下ごしらえなどする。食器片付けを一緒にする	食事は担当職員がすべてを行なっているの で、リクエストには気 安く受けてもらっている		
41		○ 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	「ご飯が多い」と訴えそれを忘れて「少ない」と怒るなど対応の難しい人もいるが一人一人の希望に添うようにしている。水分摂取については十分配慮している。昼にあまり飲まず、夜中に要求する人もあるが応じている。			
42		○ 口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や、本人の力に応じた口腔ケアをしている	入れ歯洗浄、歯磨きなど一人一人に合わせて行っている。週1回訪問歯科が口腔ケアに来ている			
43		○ 排泄の自立支援 排泄の失敗や、おむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や、排泄の自立に向けた支援を行っている	時間ごとや、様子を見てのトイレ誘導を行い、失敗を極力減らしている。体調悪化時には居室にポータブルトイレを入れたりするが、回復すると、トイレ誘導に切り替えている			
44		○ 便秘の予防と対応 便秘の原因や、及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維質の野菜を摂り水分摂取に留意し、それでも便秘する人には便秘薬を処方して貰うなどして、腸閉塞などの予防に努めている			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように、職員の都合で、曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	一応の入浴予定は立てているが、一人一人の体調希望に応じて柔軟に対応している	利用者の要望には、出来るだけ合わせている	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣や、その時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	午後に午睡の時間を設けているが、その時々体調に合わせて、居室で横になって貰うなど、安心して休息出来るようにしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と、症状の変化の確認に努めている	薬箋を参考に、目的、用法、用量を理解している。眠気やふらつきにつながりやすい薬剤については特に注意している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や、力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	好きなこと、出来ることに取り組み活気ある生活に努めてきたが、介護度が上がるにつれて難しくなったという現状もある。その中でも出来るだけの工夫はし、屋上へ登って洗濯物を干し一階でカラオケを楽しんだりする		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	「旅行に行きたい」という希望に添い、年一回の旅行を企画している。また、初参り、花見、買い物、映画鑑賞、外食など生活のメリハリとなる活動に努めている	運営者が利用者の意向を集約し、希望に副うようにしており、この数年は、四国や伊勢等への旅行を行なっている	
50		○お金の所持や、使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり、使えるように支援している	認識的にしっかりした人は、自分でお金を管理し、おやつや宝くじを購入している。家族が本人の財布にお小遣いを入れてあげている場合もある		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○ 電話や手紙の支援 家族や大切な人に、本人自らが電話をしたり、手紙のやりとりができるように支援している	携帯電話を持っている人もあるが、必要に応じて家族への電話も出来るように支援している		
52	19	○ 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な混乱を招くような刺激(音、光、色、広さ、温度など)が無いように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地良く過ごせるような工夫をしている	共用の空間はたっぷりと広さが確保されていて、心身ともにゆったりと過ごすことが出来るようになっている。又、冷暖房に対しては利用者本意に、配慮し寒くないように、涼しいように快適に温度湿度の調節がなされている	職員と利用者とは仲良く、楽しみごとを話し合っている。共用室は明るくて、居心地よく、各自は夫々自由な姿勢で楽しんでいる	
53		○ 共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で、思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	階段上の踊り場にソファを置き一人でくつろぐことが出来るようになっている。リビングにもソファがあり、気の合う同士が座って話している		
54	20	○ 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや、好みのものを活かして、本人が居心地良く過ごせるような工夫をしている	入居の時に使い慣れたタンスなどの家具を持ち込んでいる。又大切にしてきた置物、写真、仏壇、神棚などを置いて家庭的な落ち着いた空間になるようにしている	個室は各自が自由に家財を入れ、一人の時間を過ごせるようにしておられる	
55		○ 一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつ、できるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すり・誘導灯・階段上のスライド柵、エレベーターなど安全に行動出来るように配慮している。季節の壁面飾りを利用者と一緒を作る		

V アウトカム項目			
56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	① ほぼ全ての利用者の ② 利用者の2/3くらいの ③ 利用者の1/3くらいの ④ ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	① 毎日ある ② 数日に1回程度ある ③ たまにある ④ ほとんどない
58	利用者は一人ひとりのペースで暮らしている	○	① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており、信頼関係ができています	○	① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
64	通いの場やグループホームに、馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	① ほぼ毎日のように ② 数日に1回程度 ③ たまに ④ ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	① 大いに増えている ② 少しずつ増えている ③ あまり増えていない ④ 全くない
66	職員は生き生きと働いている	○	① ほぼ全ての職員が ② 職員の2/3くらいが ③ 職員の1/3くらいが ④ ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスに、おおむね満足していると思う	○	① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスに、おおむね満足していると思う	○	① ほぼ全ての家族が ② 家族の2/3くらいが ③ 家族の1/3くらいが ④ ほとんどいない